

様式第1号（第8条、第9条関係）

事業者行動計画書（変更計画書）

令和2年 7月 31日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地）

東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号

氏名（法人にあつては、名称および代表者の氏名）

東レ株式会社 代表取締役社長 日覺 昭廣

（代理人） 瀬田工場長 竹内 芳裕

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例（第20条第3項・第20条第4項
第22条第1項・第22条第2項において準用する同条例第20条第4
項）の規定に基づき、事業者行動計画を策定（変更）したので、提出します。

事業者の氏名（法人にあつては、 名称および代表者の氏名）	東レ株式会社 代表取締役社長 日覺 昭廣
事業者の住所（法人にあつては、 主たる事務所の所在地）	東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号

1 事業所の概要

事業所の名称	東レ株式会社 瀬田工場					
事業所の所在地	大津市大江1丁目1番1号					
主たる事業	細分類番号	2	7	4	1	医療用機械器具製造業
該当する事業者の要件	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意提出事業者					

2 計画の内容

計画の内容	別添のとおり
-------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

標準様式第 1 号

(第 1 面)

1 計画期間

計画期間	令和 2 年度 ～ 令和 6 年度
------	-------------------

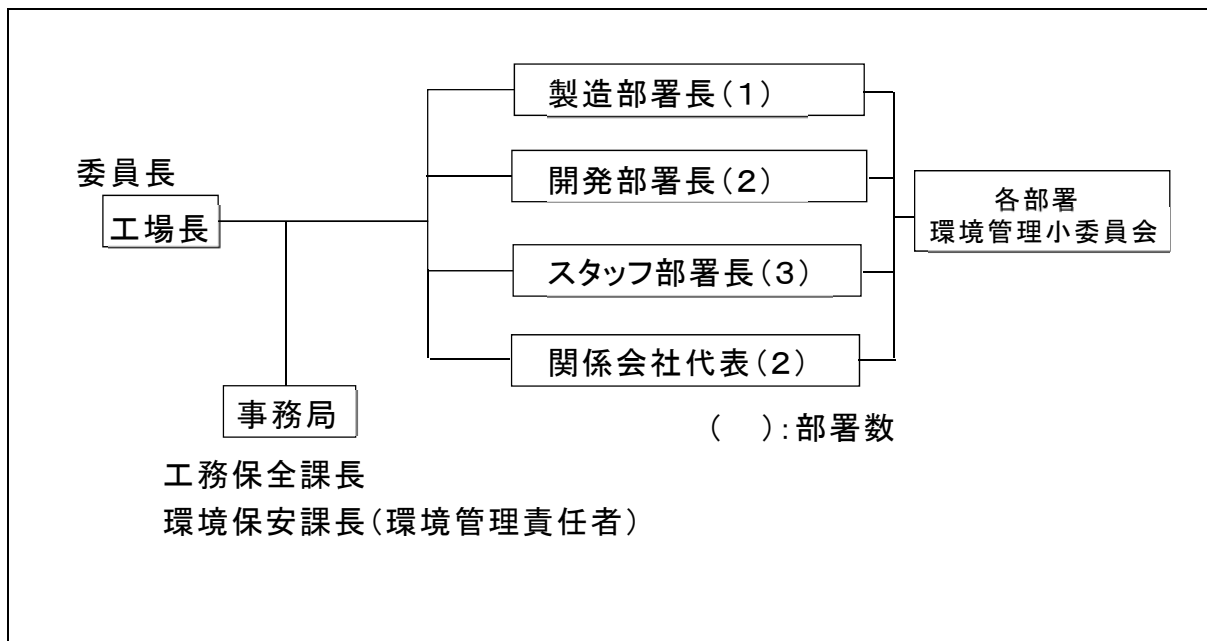
2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

【東レ株式会社 瀬田工場 環境方針】

近畿の水瓶琵琶湖に隣接する瀬田工場は、周辺環境との調和を常に意識し、企業行動指針「安全・防災・環境保全を最優先課題とし、社会と社員の安全と健康を守り環境保全を積極的に推進します」に沿って、以下の環境方針を策定し、推進しています。

1. 環境に配慮した製品およびサービスの提供、並びに省エネルギーの推進、産業廃棄物の削減等により、環境に優しい工場づくりに努めます。
2. 環境目標を設定し、その実現を図ると共に定期的に見直します。
3. 環境汚染予防のための環境保全活動を推進すると共に自然環境保護活動を積極的に推進します。
4. 環境関連の法規制および工場が同意したその他の要求事項を順守します。
5. 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
6. 本方針は文書化した情報として維持し、工場で働く全ての人に周知徹底すると共に一般に公開します。

3 低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制



備考 組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

(第2面)

4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

各種既存設備の運転効率化や省エネルギー設備の導入に温室効果ガスの排出削減を継続的に取り組んでいます。

- 太陽光発電設備による電力削減
- クリーンルーム、恒温恒湿室の運転時間効率化
- 低使用頻度の自動販売機撤去
- 高効率空調機・冷凍機への更新
- 長期末使用機器のエアコンプレーカーOFF
- 蛍光灯のLED化

(第3面)

5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	設備導入対策	照明設備のLED化等省電力型への更新による電力削減	令和2年度 ～令和6年度
2	設備導入対策	空調設備の高効率機器への更新による電力削減	令和2年度 ～令和6年度
3	設備導入対策	開発設備の省電力型への更新による電力削減	令和2年度 ～令和6年度
4	設備導入対策	太陽光発電設備設置	令和2年度 ～令和6年度
5	運用改善	空調設備の運用変更による電力削減	令和2年度 ～令和6年度

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

上記の取組によって目標達成のための削減を進めます。

【数値目標の考え方】

原単位（エネルギー使用量（原油換算kl）／生産量千t）で毎年1%以上削減を目標とします。

なお、原単位の考え方は次のとおりです。温室効果ガスの排出量は生産量に大きく影響を受けるため、生産量を原単位の指標（分母）として設定します。

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容等

1. 添付資料1（東レHP 開発・エンジニアリング組織ページ）を参照下さい。
瀬田工場には東レグループの環境・エネルギー分野における技術連携拠点の中核組織である環境・エネルギー開発センターがあり、燃料電池・リチウムイオン電池等の新エネルギー部材・材料の開発を推進しています。また、テキスタイル・機能資材開発センターでは、地球上のさまざまな気象環境が再現できる人工気象室テクノラマ等を活用し、生活空間での省エネルギーに寄与する「暖か素材、清涼素材」の開発も推進しています。
2. 東レHPの「グリーンイノベーション事業拡大プロジェクト」をご参照下さい。
https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/social/green_innovation.html
東レグループ全体での取り組み活動内容を掲載しています。

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

1. 東レHPの「サステナビリティ・ビジョン」をご参照下さい。
<https://www.toray.co.jp/sustainability/vision/>
東レグループのサステナビリティ・ビジョンを掲載しています。
2. 東レHPの「気候変動への対応」をご参照下さい。
<https://www.toray.co.jp/sustainability/tcfd/>
東レグループ全体での気候変動問題の解決に貢献する取り組み目標とその考え方を掲載しています。
3. 東レHPの「事業を通じた社会的課題解決への貢献」をご参照下さい。
<https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/social/>
東レグループ全体でのグリーンイノベーション事業（地球環境問題や資源・エネルギー問題の解決に貢献する事業）における活動内容の目標とその考え方を掲載しています。
4. 東レHPの「省エネおよび気候変動対策」をご参照下さい。
https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/environment/global_warming.html
東レグループ全体での取り組みの目標とその設定の考え方を掲載しています。



Innovation by Chemistry

環境・エネルギー開発センター

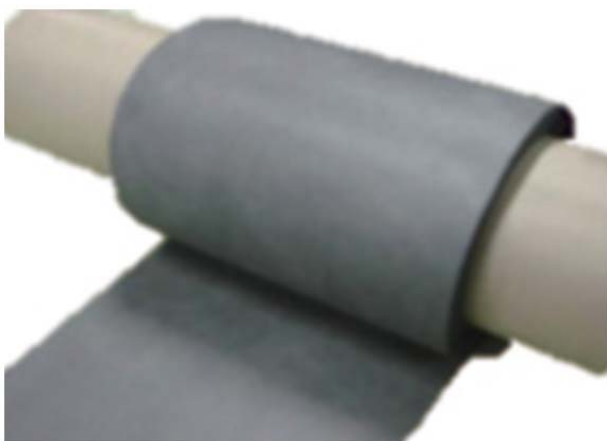
環境・エネルギー開発センターは、東レグループの環境・エネルギー分野における技術連携拠点の中核組織として2011年1月に設立されました。現在は環境資材開発室、新エネルギー材料開発室、企画推進グループの体制で、資源・エネルギー問題、地球環境問題の解決に向けたグリーンイノベーション分野および健康・長寿への貢献を目指すライフイノベーション分野への新製品の開発を推進しています。



環境・エネルギー開発センター本館（瀬田工場内）

グリーンイノベーション（新エネルギー材料）

次世代自動車の性能向上や水素エネルギーの本格普及、低炭素社会の実現に貢献する燃料電池、リチウムイオン電池等の部材・材料開発を推進しています。燃料電池においては、センター内に主要構成部材である電極基材等の試作・評価設備、燃料電池セルでの発電性能評価設備を保有し、量産を見据えた材料・プロセスの要素技術開発、評価を行うことで、お客様、社内関係部署との共同開発を加速化させています。



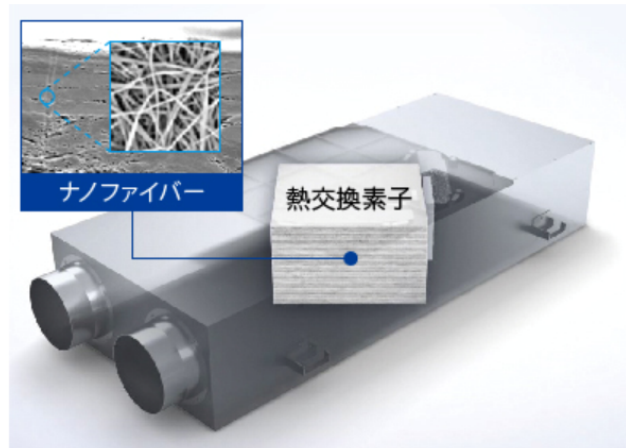
燃料電池 電極基材



燃料電池 発電性能評価設備

グリーンイノベーション（環境資材）

省エネ・省資源化、CO₂削減、快適性向上等に貢献する省エネ住環境資材、吸音材、電磁波対策資材等の開発を推進しています。住環境資材においては、東レの先端素材であるナノファイバーを適用した新規熱交換素子を開発、熱交換換気装置の大幅な性能向上（熱損失低減）に貢献しています。



熱交換換気装置と熱交換シートの断面（拡大）

ライフイノベーション

医療現場、作業現場の負担軽減や健康・長寿社会の実現に貢献する機能性防護服、フェイスマスク基材、血糖値センサー、おむつ等の衛生製品材料、歩行アシストウェア等の開発を推進しています。機能性防護服においては当社の繊維・フィルム先端素材の融合により、安全性と快適性（着用時の暑さ・蒸れを抑制）を両立コンセプトとするLIVMOA®シリーズの開発を進めています。



LIVMOA®シリーズ 感染対策衣現地実証試験の様子（ギニア共和国）



LIVMOA®シリーズ化学防護服（高通気タイプ）



Innovation by Chemistry

繊維関連技術部署

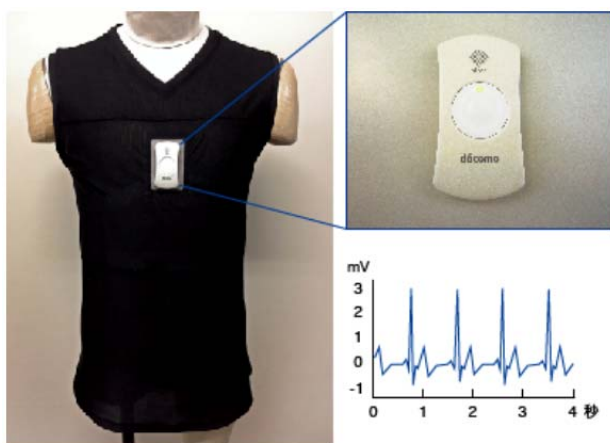
繊維関連技術部署は、東レの基幹事業である繊維において、成長分野（グリーンイノベーション事業、ライフイノベーション事業）での事業拡大や大手SPAとの取り組み強化に向けた新製品・新技術開発、先端材料の創出を推進しており、国内外の研究、開発、生産、エンジニアリング部署との連携により、スピーディかつ効率的な開発を進めています。繊維技術開発に関わる重合、製糸、高次加工、縫製品まで一貫して開発を手がけることにより、市場が求める高機能・高質感な素材・製品を創出し、グローバルな事業展開を支えています。

- フィラメント技術部
- ステープル技術部
- 産業用フィラメント技術部
- 不織布技術部

原糸・原綿については、フィラメント（長繊維）、ステープル（短繊維）、不織布等の形態や、衣料・産業資材等の用途に応じてさまざまな素材開発を行うとともに、ベースとなる要素技術の深化を図っています。

- テキスタイル・機能資材開発センター
- 繊維加工技術部

高次加工では、衣料向け感性・機能テキスタイルや産業資材向け特殊機能テキスタイルなどを中心に、紡績、糸加工、織布、編成、不織布、染色、機能加工から縫製、評価技術にわたる幅広い技術を駆使した新製品、新技術開発に取り組んでいます。



生体信号を高感度に検出できる機能素材hitoe®を使用したウェア、および小型専用端末、心電波形の測定例

※hitoe®は医療機器ではありません



高強度ナイロン66繊維が使用された側面衝突対応のサイドエアバッグとカーテンエアバッグ



地球上のさまざまな気象環境が再現できる人工気象室テクノラマ